

ハウステンボス 環境製品に参入

断熱塗料や省電力装置

ハウステンボス（HTB、長崎県佐世保市、沢田秀雄社長）は環境関連製品の販売事業に参入する。ベンチャー企業から、工場や商業施設に使う断熱塗料と省電力インバーターの九州での販売権を取得。園内で効果を実証した上で、福岡市に専用の営業拠点を設けて九州全域で売り込む。新たな収益源に育てるほか、環境をテーマにした同園のPRにもつなげる。初年度に30件の受注を目指す。

HTBのスマートハウスに使われている環境技術（製品）

- ・太陽光発電システム
- ・太陽熱温水パネル
- ・風力発電システム
- ・磁力発電システム
- ・蓄電池
- ・空調に使う放射パネル
- ・海水熱利用ヒートポンプ
- ・多機能断熱塗料
- ・電動自転車
- ・電気自動車

（注）導入予定を含む



HTB内に開設したスマートハウスの屋根には断熱塗料を導入している

販売権から新たな収益源に

福岡市中央区に24日、備メンテナンス子会社で営業所を開設する。HTBはテーマパーク事業や旅行関連で営業拠点を設けているが、環境ビジネスでは初めて。園内の設

備メンテナンス子会社で、九州エリアで営業攻勢をかける。当初取り扱う多機能断熱塗料は環境ベンチャー

のエクセラ（東京・港）製で、HTBは園内に設けている環境技術の実験棟「スマートハウス」に導入した。日光のような高温の放射熱と冬の冷気など低温放射熱の両方を反射し、室内を快適に保つ効果があるという。工事費込みの価格は外装で1平方メートルあたり3500円。通常の2倍強の価格だが、無機質のセラミックで表面を覆っているため紫外線の影響を受けにくい。耐久性が高く維持管理費を抑えられ

る利点を訴える。省電力に役立つインバーターは、ティエスイー（神奈川県大和市）が開発、製造する。電圧と周波数を調整しポンプやファンといった機器の電力消費を減らす。2年程度で初期投資を回収できるという。電気料金上昇に悩む工場や医療機関などの需要を見込む。

園内の直営ホテル「ホテルヨーロッパ（客室数328）」では、定格容量22キロワットのモーターを備えた冷水ポンプ4台にインバーターをそれぞれ導入。電気使用量が3分の1に減り、年間で計350万円の電気代を削減できた。インバーター価格はモーター容量によって異なるが、22キロワット級では1台200万円。

HTBは1992年の開業時から「環境に配慮したテーマパーク」を掲

日商保険「リサイクル」

消費を減らす。2年程度で初期投資を回収できるという。電気料金上昇に悩む工場や医療機関などの需要を見込む。

園内の直営ホテル「ホテルヨーロッパ（客室数328）」では、定格容量22キロワットのモーターを備えた冷水ポンプ4台にインバーターをそれぞれ導入。電気使用量が3分の1に減り、年間で計350万円の電気代を削減できた。インバーター価格はモーター容量によって異なるが、22キロワット級では1台200万円。

HTBは1992年の開業時から「環境に配慮したテーマパーク」を掲

げている。スマートハウスで最新の省エネ技術や製品を多数導入し、「園内で実証した環境技術を発信する」（沢田社長）。

同社の2012年9月期の単独決算は入場者数の順調な拡大を背景に、営業利益が24億円と前期の2・3倍になった。13年9月期は同8割増の44億円を見込む。入場者数は同2割（41万人）増の233万人を予定している。業績回復も追い風に、環境関連の取り扱い製品を順次増やしていく。